

# 「芭蕉学」のすすめ

佐々木 清人 著

## 芭蕉句189句と蕉門十哲の句そして河合曾良の句の紹介

芭蕉翁は江戸時代初期の寛永二一年(1644年)九月二七日、伊賀上野赤坂に生れる。現在の三重県伊賀市上野赤坂町で、父は松尾与左衛門(生年没不詳)、母は百(?-1682年)、その間に次男として生まれる。父の与左衛門は、土豪・柘植七党の松尾氏の傍流の出で、柘植村から上野城下の赤坂町に移っている。身分は「無足人」と呼ばれる農民で、名字帯刀は許されたが戦時には下級武士として無給で徴集される立場であった。兄弟には兄の半左衛門(生没年不詳)、姉一人と妹三人がいた。母の百の正確な名前は不明であるが、四国伊予の宇和島と今治を領していた藤堂高虎(1556-1630年)が伊賀の国に移封となった時、宇和島から同行した桃地氏の娘とされる。芭蕉翁の幼名は金作、通称は甚七郎または甚四郎と称され、名は忠右衛門、のちに宗房と改められた。俳号は当初、本名を音読みして宗房を名乗っていたが、母の出に因んで「桃青(とうせい)」とした。その後の三八歳の時、江戸の草庵に門人の李下(?-1703年)から芭蕉一株が贈られて、「芭蕉(はせを)」と号するようになった。



### 目次

#### 前書き

- (1) 芭蕉翁の生い立ち
- (2) 伊賀上野時代
- (3) 江戸日本橋時代
- (4) 第一次深川芭蕉庵時代
- (5) 野ざらし紀行
- (6) 第二次深川芭蕉庵時代
- (7) 笈の小文
- (8) 更科紀行
- (9) おくのほそ道の序曲
- (10) おくのほそ道の抜粋
- (11) 近畿遍歴
- (12) 第三次深川芭蕉庵時代
- (13) 最後の旅
- (14) 蕉門十哲の句と曾良の句

#### 後書き

### 23番、

#### 「春立や 新年ふるき 米五升」

貞享元年(1684年)の立春の句で、新年になって古米ではあるが米が五升もあると、自慢げな句である。初案の上五は「我富り」で、五升の米は瓢の米櫃にあった。山口素堂が「四山の瓢」と名付けたと聞く。この句は伊賀蕉門の重鎮・服部土芳(1657-1730年)が著した『三冊子』に収められ、蕉風復古を唱えた高桑蘭更(1726-1798年)によって刊行された。

### 著者紹介

佐々木 清人 (ささき きよと)

雅号：紫闇 陀寂 (しやみ だじゃく)

昭和28年(1953年)生まれ。秋田県平鹿町(現・横手市)出身。

職業：随筆家見習い、自称詩人。

主な資格：第1回日本温泉名人、建築設備士、

1級管工事施工管理技士、2級造園施工管理技士、

消防設備士、調理師など多数。

著書：短歌集『漂泊の思いやまず』創文印刷出版

紀行文『三野山巡礼』新風舎

紀行文『奥の細道輪行記』近代文藝社

和歌集『名僧百人一首』文芸社

和歌集『侍百人一首』文芸社

短歌集『設備屋放浪記』文芸社

紀行文『新四国八十八ヶ所霊場』イズミヤ出版

随筆集『高野山と伊勢神宮』イズミヤ出版

貴店番線	発行：藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165 FAX0154-22-2546	
月日	「芭蕉学」のすすめ	
冊	佐々木 清人 著 定価1,320円(税込) ISBN 978-4-86538-150-4 C0095 ¥1200E	2023年3月1日 第1刷発行 発行所 藤田印刷エクセレントブックス 判型 四六判(198頁) 印刷・製本 藤田印刷株式会社

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで